

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0770401768		
法人名	社会福祉法人 養生会		
事業所名	グループホーム かしま		
所在地	福島県いわき市鹿島町下蔵持字里屋13-1 (電話) 0246-58-2288		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111		
訪問調査日	平成21年3月3日	評価確定日	平成21年4月28日

【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.0 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	79歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山医院、かしま病院、クリニックかしま、かしま蛭田歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所はいわき市中心部の商業発展地域に位置し、農家・新興住宅街・保育所・小学校などが周辺にある。地域で25年余りの歴史をもつ社会福祉法人養生会が運営母体となり、平成15年に事業所が開設された。同法人が運営している特別養護老人ホームと同法人の系列法人が運営している病院が事業所に隣接しており、医療や介護に関する連携が密に行われている。また、職員一人ひとりに目標を持たせ計画的に育成を行う取り組みがされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で課題となった個人記録の保管場所については、確実に保管できる場所に変え改善した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員が評価項目に関する意見を出し合い、管理者がまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。事業所からの現況報告をした上で各委員からの意見をいただき運営に反映させている。委員から入浴の効果について助言をいただき、利用者への入浴支援の参考にしたことがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見を言いやすい状況を作るため、家族参加の行事(食事会等)を年6回開催し、その際に家族から積極的に意見を出していただいている。出された意見は、日々の生活や支援に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	季節毎にイベントを開催するとともに、地域の方々と共にさつま芋堀りを行うなどして地域住民と交流している。また、定期的に地域のボランティアの方々が訪問し、利用者と共に本を読んだり、利用者の話し相手になっていただいている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人養生会の理念を基本とし、「利用者自身が地域住民の一人として地域との交流が円滑に継続できるように支援していく」という主旨の理念をつくっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、月に数回行っているミーティングにおいて、運営理念に基づいた実践となっているか話し合いながら確認し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節毎にイベントを開催するとともに、地域の方々と共にさつま芋堀りを行うなどして地域住民と交流している。また、定期的に地域のボランティアの方々を訪問し、利用者と共に本を読んだり、利用者の話し相手になっていただいている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で課題となった個人記録の保管場所については、確実に保管できる場所に変え改善した。今回の自己評価は、全職員が評価項目に関する意見を出し合い、管理者がまとめた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。事業所からの現況報告をした上で各委員からの意見をいただき運営に反映させている。委員から入浴の効果について助言をいただき、利用者への入浴支援の参考にしたことがある。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している事業所の会報に行事等の状況を掲載し、家族へ送付し利用者の状況を全体的に報告している。また、電話や面会時に利用者一人ひとりの日々の暮らしぶりを家族へ報告しているが、面会が少ない家族へは十分報告できない場合もある。		事業所の会報の他に1ヶ月ごとの利用者の生活の様子を担当職員が簡単にまとめたお便りを家族へ送り、面会が少ない家族であっても利用者の生活の様子がわかるようにしてほしい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を言いやすい状況を作るため、家族参加の行事(食事会等)を年6回開催し、その際に家族から積極的に意見を出していただいている。出された意見は、日々の生活や支援に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員異動や離職が生じた場合には、新任職員が慣れるまでベテラン職員と一緒に業務を行い、利用者への影響が最小限になるように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が年間目標を設定したうえで年4回自己評価と上司の評価が行われている。その評価をもとに職場内外の年間研修計画が作成され、職員の課題に応じた研修が積極的に行われている。外部研修参加後は復命書を作成し、ミーティング時に職員へ報告を行い研修内容を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入し、研修時に他のグループホームと交流している。特に年4回開催されるいわき地区グループホーム連絡協議会のスタッフ研修会には、毎回3名程参加し他事業所の職員と意見交換を行いサービスの向上につとめている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者ができることはしていただき、できない部分は共に行うという姿勢で支援している。また、過去の出来事が書いてある本を活用し、利用者が昔のことを思い出しながらか職員と共に会話するのが日課となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話などで把握した利用者の思いや意向については、毎日短い時間のミーティングを行い、職員間で情報交換を行い共有している。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回行っているケース検討会において、利用者や家族の意向を反映させた介護計画を話し合っ作成している。また、利用者ごとに担当職員を決め、家族が訪問した際などに、介護計画に関する家族との話し合いを行っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1回行うことを基本にしている。1日ごとの利用者の介護記録をもとに1ヶ月単位で評価と今後の課題をまとめ、月1回行うケース検討会で見直しが必要か検討している。必要な場合は3ヶ月に満たなくても介護計画を見直している。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医でも事業所の協力医でも両方受診できるようにしている。家族が付き添えない場合は職員が付き添い受診を支援し、受診結果は家族へ必ず報告している。事業所の協力医に、2週間に1回事業所に往診してもらっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に関しては、利用者の状態に応じて家族・協力医・管理者が話し合いを行うとともに、介護計画に対応方針を記載し、職員も含め関係者全員で方針を共有している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の言葉かけはさりげなく、利用者一人ひとりに対し心配りをしている様子が伺える。個人情報記載してある書類は、事務室内で鍵を掛けて保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、それにこだわることなく一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。「お墓参りに行きたい」「美容室に出かけたい」という希望に対しても丁寧に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	写真入りのメニュー表を活用し、職員と利用者が会話しながら献立を決めている。利用者が火で作った食材を調理することもある。職員も利用者と共に料理のことを話題にしながらかし食事を楽しんでいる。利用者も職員と一緒に食事の準備や片づけをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前でも午後でも利用者の希望に応じて入浴ができるように配慮している。仲の良い方同士で入浴することもある。また、好みの温度にするよう配慮している。入浴を拒否する場合は、要因を探りながらその方に合わせた丁寧な支援を心がけている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	暖簾づくり・洗濯物たたみ・絵本の朗読等利用者の得意なこと、好きなことを見つけてその都度お願いし利用者のやりがい・生きがいの支援を行っている。ちぎり絵では多くの利用者が参加できるようテーマを変えて取り組み、出来上がった作品はホールに飾ってある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	季節や天候、その日の体調や希望に応じてなるべく多く外出ができるよう支援している。本屋や回転寿司、お墓参りなど、本人からの希望があればその都度対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由な暮らしができるように、職員間の連携の下、見守りを密に行い日中は鍵をかけていない。外出したそうに玄関に行く利用者がいれば、職員と一緒に付き添って外出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>運営母体法人の合同避難訓練とグループホーム独自の避難訓練をあわせ、月1回避難訓練を実施している。災害時の水や食料は、隣接している運営母体法人の病院に備えてある。夜間を想定した避難訓練は計画中である。近隣住民の災害時の協力は働きかけているが、具体的な役割を決めていない。</p>	○	<p>夜間を想定した訓練を計画に沿って実行してほしい。また、災害時の近隣住民の具体的な役割を決めた上で、実際に避難訓練に参加していただき、いざというときにスムーズに利用者の避難と安全確保が出来るようにしてほしい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスや利用者が食べられる量に配慮し食事メニューを作成している。また、利用者の状況に配慮して食事やお茶の勧め方を工夫している。食事や水分摂取量は、ケース記録に記録している。</p>		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関の入り口には季節を感じさせる植物があり、時折利用者が植物に水をかけている。居間には天窓があり、柔らかな光がさしこんでいるとともに不快な音もなく、利用者がゆったりと過ごせる共用空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>一人ひとりの個性を尊重し、利用者や家族と相談しながら居心地よく過ごせる居室づくりの工夫をしている。利用者にとって大切なもの(位牌・写真・愛用している小物)を居室に持ち込んでいる。</p>		

 は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム かしま

記入担当者名 小野 則子

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。